

(For School teacher)

Form 5

平成 22 年 9 月 30 日

## サイエンス・ダイアログ事業 実施報告書

1. 参加機関(学校名)・担当者: 静岡県立磐田南高等学校 ・ 山村 京子

2. 参加研究者: Dr. Praveen Vakayil

3. 実施日時: 平成 22 年 9 月 29 日 (水) 13 :00 ~ 14 : 00

4. 参加生徒: 2 年生 39 人、 1 年生 0 人、 3 年生 0 人 (合計 39人)  
備考: (例:理数科の生徒) 2年理数科生徒

5. 講演題目: (英文) A Journey from Molecules to Materials

(和文) 分子から材料への旅

6. 講演概要: 動画をたくさん使ったインド全土の詳しい説明。言語から文化、食物の違いまで。インドの公教育では、全国民の共通言語として英語を教えていること。

白川博士の導電性高分子の研究で、プラスチックの発展的な利用が可能になった。また飯島澄男博士が発明したカーボンナノチューブも、フラーレン研究において偶然見出されたものである。私の研究は炭素原子の自己組織化の過程において、磁気材料を新しく創り出すことである。

7. 使用言語: 英語

8. 講演形式:

(1) 講演時間 50 分 質疑応答時間 10 分

(2) 講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、プレ実験など)

プロジェクター使用による講演

(3) 通訳 (例: 受入研究者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)

協力者 職・氏名

本校教諭・石垣

(4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)

9. 支給経費:  交通費  宿泊費  謝金

10. その他特筆すべき事項: